

吃音(どもる)

幼児期には5%くらいに見られる。2歳頃から始まり年長の頃には80%が自然に治る。学童期以降は治るのは稀。小学生の1%程度に見られる。

吃音の種類

連発（音を繰り返す）：「お、お、おかあさん」

伸発（音を伸ばす）：「おーーかあさん」

難発（音がなかなか出にくい、出ない）：「・・・おかあさん」

望ましい対応

- ① 話し方に注目しないで、話の内容をしっかりと聞く。会話を楽しむ。
- ② 心配そうに聞くのではなく、ゆったりと聞く。
- ③ どうしても言葉が出ない時には、子どもが話そうと思ったことを推測し、「○○なのね」と返してあげる。
- ④ 吃症状だけに注目しないで、得意なことに視点を向けることや活躍できる場を設定し、認める・ほめる場面をつくり、自己肯定感が下がらないようにする。
- ⑤ 周囲の子どもへの対応は丁寧にする。「人それぞれ個性があって、話し方もそれぞれだよ」ということを年齢に応じて話す。「○○ちゃんはなんであんな言い方をするの?」と言った時には、「そんなことを言ったらダメ」と言うのではなく、吃音について丁寧に説明する。
- ⑥ からかいに対しては、きちんとした対応をとる。

避けたい対応

- ① 吃音を悪いものと考え、吃音の話題を避ける。吃音を治そうとする。
- ② 「ゆっくり言ってごらん」「落ち着いて言ってごらん」など、言い方の注意をする。
- ③ 吃症状がありながらも話そうとしているのに、途中で話をとってしまう。

相談の場通級指導教室（ことばの教室）、言語聴覚士（病院・療育施設）